

トピックス



大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

都島中学校へ職業講話

～総務企画部総務課より広報主任官が出席～



熱心に耳を傾ける中学生

【総務企画部 総務課】2月1日（金）、大阪市立都島中学校において2年生124名を対象に、森林管理局総務課広報主任官が職業講話を行いました。

この講話は、昨年11月に実施された「職場体験」の一環として中学校から、生徒たちに「働く」ことの意義や目的について、しっかり学び、また考える機会として企画されたものです。

当日講話の講師として、（株）加島ほか3名の講師がそれぞれ20分間という持ち時間で、現在の仕事を選んだ理由やそのためにどのような努力をしたのか等を話しました。

はじめに自己紹介を行い、大阪市内に森林管理局があることを理解して頂き、その歴史や仕事の内容について説明したあと、現在の職業を選択した理由について話しました。まず、「就職するに当たり、進学する高校を選択することが大切で、そこから自分が将来どのような職業に就きたいかが概ね決まります。実業高校、普通科高校などがありますが、自分が選んだ高校は実業高校ですが、先輩方の多くが各種公務員になっている実績があり、高校2年生の後半に「自分も公務員になりたい」という目標ができ、自分にできる範囲で一生懸命努力をしました。」



語る広報主任官

「続は力なり」という言葉がありますが、目標に向かって日々努力することが将来の自分の人生を左右するポイントになる」ことを体験談として話しました。

次に、就職に当たり資格取得など努力したことについては、「高校で取得できる資格はありますが、就職してから業務遂行に必要な各種資格を取得することが求められます。例えば、測量士補、森林インストラクターなどを取得すると業務運営上プラスになります。その他にも自分の興味のある資格にはどんどんチャレンジして欲しい」などを伝えました。

最後に、中学生に望むことについて、①お互いが切磋琢磨できるような友達をつくる。②チャレンジ精神を持ち続ける。（失敗を恐れず努力する）③勉強にスポーツに真剣に取り組む。（何事にも一生懸命努力すれば結果はついてくる）④趣味を持つことは心を豊かにする。などについて体験を含め話しをしました。

人生の先輩として、職業選択時の参考になればと思い出で講話を終了しました。

「シカと森と人の葛藤」

～シンポジウムの開催～

【箕面森林ふれあい推進センター】 2月23日（土）、大阪市内の「AP梅田」でシンポジウム「シカと森と人の葛藤」を開催しました。募集人員を大幅に上回る255名もの参加があり、ニホンジカの問題への関心の高さが伺われました。

近年、全国的にニホンジカが増加し、農林業被害だけでなく、ニホンジカの過度な採食によって森林生態系への悪影響を及ぼしています。その影響は、希少植物の減少、森林下層植生の衰退、生物多様性の低下、土壌の流出など多岐にわたっています。

シンポジウムでは、ニホンジカの生態、ニホンジカが及ぼす森林生態系への影響、全国各地のニホンジカ管理事例の紹介のほか、今年度策定した「大杉谷国有林におけるニホンジカによる森林被害対策指針」のPR、大杉谷国有林を含む森林におけるニホンジカの管理のあり方を論議しました。

第1部では、麻布大学の高槻成紀教授から金華山でのニホンジカの植物群落へ

沢山の方にご参加頂きました

の影響を例に、シカとはどういう生き物なのか。信州大学の瀧井焼子氏から、長野県におけるニホンジカの季節移動について、季節移動するニホンジカの中には、約30kmも移動する事例説明がありました。神奈川県自然環境保全センターの田村淳氏からは、丹沢山地での柵を使ってニホンジカの食害から森林を守る取組について、三重県宮川森林組合の岡本宏之氏からは、パッチディフェンスの活用による広葉樹育成の取組について、（一財）自然環境研究センターの荒木良太氏からは、大台ヶ原でのニホンジカ生息密度管理の取組などについて報告されました。

また、第2部では、近畿中国森林管理局木薯計画部長による大杉谷国有林森林被害対策指針紹介の後、名城大学日野教授をコーディネーターに、講演者と計画部長が「増えるニホンジカから森を守る」をテーマにパネルディスカッションを行いました。

パネルディスカッションでは、各パネラーが人と森の関係、森とシカの関係、シカと人の関係毎に意見を述べ、ニホンジカ対策には、優先順位を付け広域的な取組が必要であり、GISを利用した対策や行政の域を超えた地域一体となった取組みが有効であることなど意見がありました。



平成24年度「地域管理経営計画等有識者懇談会」

【計画保全部 計画課】 3月12日（火）、平成24年度「地域管理経営計画等有識者懇談会」を開催しました。

この有識者懇談会は、国有林野の管理経営の基本的な事項について定める「地域管理経営計画」及び伐採、更新等の箇所別の森林施業について定める「国有林野施業実施計画」を策定するにあたり、学識経験者等の多様な意見を把握し、これらの計画に適切に反映させるために実施しているものです。



懇談会の様子

計画策定等のポイントは、①公益重視の管理経営の一層の推進、②森林・林業の再生に向けた貢献に取り組むことにあります。このため、機能類型に応じた適切な管理経営を推進し、公益的機能の維持・増進のための森林施業を実施するとともに、国有林及び民有林の一体的な整備及び保全も推進することとしています。

今回、出席いただいた委員の方々から、公益重視の管理経営のための計画書への記載方法のあり方などについて意見を頂きました。これらの意見については、計画に適切に反映させた上で策定を行うこととしています。

地域ニュース

七里御浜防風林GG作戦

【三重森林管理署】 2月24日（日）、七里御浜国有林を含む七里御浜海岸の防風林において、「七里御浜防風林GG作戦」が実施されました。

このイベントは、熊野市、御浜町、紀宝町にまたがる七里御浜の松林（防風林）を守り育てるために、松の苗木を地域ぐるみの奉仕により植樹し、これを機に七里御浜松林を再認識しようと、地元市町、県、国の関係機関が連携した「七里御浜松林を守る協議会」が平成5年度か

ら続けている取組です。



仲良く植樹

当日は、穏やかな青空の下、熊野市、御浜町、紀宝町のそれぞれの会場に分かれてクロマツの植樹や林内の清掃活動が一斉に行われ、地域住民やボランティアなど3会場合わせて約150名が参加しました。

紀宝町の会場では、七里御浜国有林内に約50名が集まり、当署飛鳥森林事務所の久保木森林官の植樹指導を受けた後、スコップを手にクロマツの苗木約100本を植樹し、最後に林内のゴミ拾いを行うなど、雄大な熊野灘を背に心地よい汗を流していました。

一昨年の東日本大震災では、防潮林としてクロマツ林が津波の力を吸収し減災の効果が発揮されました。七里御浜国有林も太平洋側の沿岸部に位置しており、今回植林したクロマツが立派に成林し、地域の安全・安心のため防風林・防潮林として立派に機能してほしいという祈りを込めて植林しました。

なお、当署では、七里御浜国有林の松林をマツクイムシ等による松枯れの被害から守るため、これまで薬剤の散布による防除や被害木の伐倒駆除を行っていましたが、平成17年度からは周辺環境への影響に配慮し、薬剤をマツの樹幹に直接注入する方法による防除を続けています。

平成24年度も、約1,200本のマツに薬剤を注入し、被害の防止に努めています。



参加者の皆様、お疲れ様でした

「オオクワガタの棲める森づくり」 ボランティアによる補植を実施

【箕面森林ふれあい推進センター】 3月17日（日）、箕面国有林エキスポ'90みのお記念の森内の「オオクワガタの棲める森づくり」において、NPO日本森林ボランティア協会の活動日に（株）ローソンの職員を招いてクヌギなどの苗木の植栽作業を実施しました。NPO日本森林ボランティア協会10名、（株）ローソン職員34名、（公社）国土緑化推進機構2名の参加で、箕面森林ふれあい推進センターから2名が植栽の指導に参加しました。

ローソンは、店舗で「緑の募金」活動を行い、全国で森林整備活動など展開しており、ちょうど今回の活動が1,000回目の活動となりました。



大きく育てと見守りながら

快晴で小春日和の暖かい日となり、苗木は、箕面市立萱野北小学校の児童らの手で育てられた苗木200本と

※セラミック苗

セラミック苗を植える

500本でクワや手作りの植穴掘機で楽しそうに植えていきました。参加者からは、「木を植えるのは楽しかった」「植えた木が、来年や将来にどうなっているか、時々見に来たい」などの声が聞かれ、これからも広く市民の方などに「オオクワガタの棲める森づくり」に参加していただき、市民参加による森づくりが広がっていくことを期待しています。

※セラミック苗

水を吸う特殊なセラミックで育てた苗。植栽は、棒状の穴を開けた後に差し込めばよく、地拵えなしで植栽できることや植栽の能率が良いことから森林整備のコスト削減に期待されている。



「気比の松原」

100年構想シンポジウム」

【福井森林管理署】 2月23日（土）、日本三大松原のひとつである福井県敦賀市の名勝「気比の松原」の長期保全を図るための基本方針「気比の松原100年構想」を広く市民に周知するため、福井森林管理署は敦賀市きらめきみなと館でシンポジウムを開催しました。

気比の松原は広さ約32ヘクタールの国有林ですが、観光地や市民の憩いの場として親しまれているとともに潮害防備保安林にも指定されています。松くい虫の被害や森林構成の変化、樹勢の衰弱が進行していることから、長期的な視野を持った保全が求められており、専門家や市民、行政を交えた検討委員会による審議を経て、森林管理署が基本方針をとりまとめました。

シンポジウムでは、同署の敷内次長から、松くい虫被害の深刻さや全体的に本数が多く混みすぎていること、単木的にも幹が細く根の張りも弱いマツが多いことなど、調査結果に基づく現状を説明。植生遷移も踏まえながら、日光が十分届くようにマツの過密林分の密度調整や増加が目立つ広葉樹の伐採、松葉かきなどによるマツに適した生育環境の整備など必要な取り組みを紹介したほか、行政や市民団体が連携して取り組むことの重要性を強調しました。

パネルディスカッションは、市民代表や学識者を含む6名で実施。中島署長から「松原の半分を針広混交林にしてはどうかという意見もあったが、松原は松原として将来に残すべきという結論となった。」と検討委員会における基本認識について紹介したほか、「マツ林として残していくためには、①薬剤散布を含む松くい虫防除の継続、②マツ過密林分の密度管理、③広葉樹の伐採、抑制が大切。」と人手をかけていくことの必要性を訴えました。



パネルディスカッションの様子

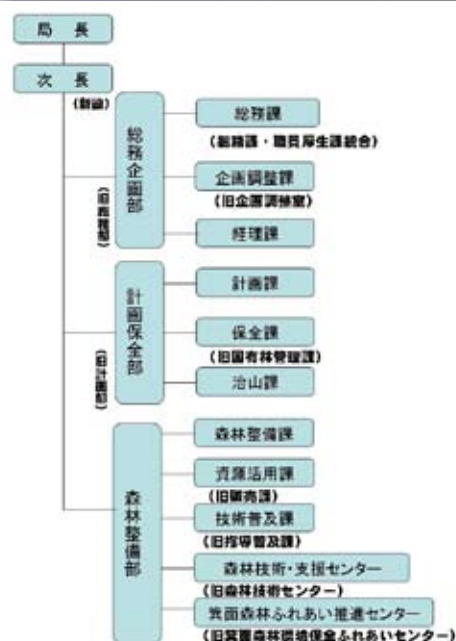
パネリストや会場からは、「松原を守っていくために市民が積極的に協力していくべき。」「学校の環境教育の一環として取り組んではどうか。」などの意見が数多く出されました。また、実行にあたっては常に関係者、市民が話し合いながら進めていくことの大切さや、もっとPRをすべきなどの指摘もありました。市民の関心の高さを改めて実感したシンポジウムでした。



沢山の方にご参加頂きました

お知らせ

4月1日から一般会計化移行に伴い
森林管理局の組織が大きく変わります。



森林のギャラリー（局庁舎1階）

【4月の展示スケジュール】

4/1～4/12 「春の結び展2013」【結び遠曾】

4/1～4/14 「手にあたたかい杉の木工品」

【津山地区木材組合】

4/15～4/19 「サクラ」【企画展示 技術普及課】

4/20～5/4 京都京北の里森の展示会

【京北木材業協同組合】